

本書のねらいとe-ビジネスの現在

0.1 本書のねらい

まず本書の狙いから説明したいと思います。もちろん本書の第一の目的はe-ビジネス（インターネットを利用したビジネス）について説明することです。e-ビジネスの数と同じくらい、巷間にはe-ビジネスに関する書物が数多くあります。しかし、事例を単純に羅列したり、キーワードをバラバラに説明したりしている場合が多いようです。そこで本書ではe-ビジネスをできるだけ体系的に理解できるように工夫しました。すなわちe-ビジネスとは何か理解できるようにe-ビジネスモデル（e-ビジネスのプロセスと収益構造）という記述の枠組み、ならびにバリューチェーン（ビジネス上の価値を生み出す機能の連鎖）という分類の視点を導入しました。言い換えれば、多種多様に見えてとらえどころのないe-ビジネスを、モデルの助けを借りて定義・分類し、その分類にしたがって個々のe-ビジネスを説明するようにしました。

e-ビジネスを理解するというねらいに関連しては、新しくe-ビジネスを作り出そうとしている人に対して、その作り方のヒントを与えるという目標もあります。そこでe-ビジネスがすでに完成されたものではなく、常に進化し続けるものであるという視点を強く打ち出しました。言い換えると、これまでe-ビジネスの担い手たちがどのようにe-ビジネスモデルを作ってきたのかを説明することで、これからe-ビジネスモデルを作る際のヒントにしたいと考えました。確かに全く新しいe-ビジネスモデルもありますが、e-ビジネスの担い手たちは、むしろ新しいビジネスのために手持ちのe-ビジネスモデルを使ったり、既存のe-ビジネスモデルを組み替えたりして新たなe-ビジネスモデルを作成している場合が多いと思われるからです。あわせて、e-ビジネスモデルに関する権利を保護したり、利益を上げたりするために必要となるビジネスモデル特許の概要について説明しました。

本書の第二の目的はe-ビジネスという視点から情報技術（IT）を統合的に解説する